

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
定時株主総会 毎年6月に開催します。
剰余金の配当の基準日
 期末配当 3月31日
 中間配当 9月30日
定時株主総会の基準日 3月31日
 その他必要があるときは、予め公告して基準日を定めます。

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
郵便物送付先 168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

電話お問い合わせ先 ☎ 0120-288-324 (フリーダイヤル)
受付時間は9:00~17:00 (土日祝日を除く)

特別口座に関する
事務取次所 みずほ証券株式会社本店および全国各支店
プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)
みずほ信託銀行株式会社本店および全国各支店

公告方法 電子公告とし、当社ホームページに掲載いたします。
なお、電子公告によることができない事故その他
やむを得ない事由が生じたときは、大阪市において
発行する産業経済新聞に掲載いたします。
(ホームページ) <http://www.kurimoto.co.jp>

単元株式数 100株
上場証券取引所 東京証券取引所
証券コード 5602

■ 100株未満の株式をお持ちの株主様へ

当社の単元株式数(売買単位)は、100株です。
一方、単元未満株式(1~99株)につきましては、証券市場で売却することはできませんが、当社に対して買取を請求して売却できる制度をご利用いただけます。お手続き等の詳細は、お取引の証券会社もしくは、上記のみずほ信託銀行までお問い合わせください。

■ 株式に関するお問い合わせ先

- 証券会社に株式をお預けの株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求、配当金の受け取り方法の変更等、株式に関する各種お手続きは、お取引の証券会社にお問い合わせください。
- 証券会社に株式を預けておられない株主様の場合、当社がみずほ信託銀行に開設しております「特別口座」にて株式を管理しています。特別口座の株式は、単元未満株式の買取請求を除き売買できませんので、証券会社に株主様名義の口座を開設し、株式を振替されることをお勧めいたします。お手続き等の詳細は、特別口座の口座管理機関である、上記のみずほ信託銀行へお問い合わせください。
- 未払配当金のみ、みずほ銀行全国本支店でもお取扱いたします。

ホームページで最新情報を即座に発信

<http://www.kurimoto.co.jp>



KURIMOTO REPORT 2019

<http://www.kurimoto.co.jp/csr/>



株式会社 栗本鐵工所



KURIMOTO

第124期

年次報告書

2019年4月1日～2020年3月31日



CORPORATE MESSAGE

コーポレートメッセージ

モノづくりで未来を創る、 クリモト

クリモトは、1909年の創業以来、
お客様満足第一のモノづくりに徹して、社会のインフラ整備、
ライフラインや産業設備の拡充に貢献してきました。
これからも、110年で培った技術力にさらに磨きをかけ、
独自の技術と製品・サービスで社会の生命線と人々の暮らしを守り、
社会に貢献し続けたい。
そして、チャレンジ精神・創造力溢れるオンリーワン企業へ。
それが、クリモトの願いです。

CORPORATE PHILOSOPHY

企業理念

私達は水と大気と生命(いのち)の惑星、地球を大切にし、
人間社会のライフラインを守ります。

私達は「安心」という価値を提供し、
社会と顧客の信頼に応えます。

私達は顧客の声をよく聴き、顧客から学び、
独自の技術を深め、新しい技術を加え、
顧客にオリジナルな「最適システム」を提案します。

私達はモノづくりを通して、
社員の幸せと人間社会の幸せを目指します。

私達はこれらの実践のため、
コンプライアンス経営を徹底し、
継承と変革の調和を計り、個性と創意を尊重し、
企業の発展と社会への貢献に努めます。

CONTENTS

3	トップコミットメント
5	中期3か年経営計画
7	事業の概況
8	事業部別営業品目の紹介
9	TOPICS
11	財務ハイライト
12	連結財務諸表
13	株式の状況
14	会社概要

表紙写真：新潟県 山本山高原 眺望
P1、P2写真：静岡県 朝霧高原



ステークホルダーの皆様へ

事業の境界線を超え、 新しい領域の新たな価値を 夢ある未来のために。

株式会社 栗本鐵工所 代表取締役社長

串田 守可

平素は当社グループの事業運営に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は1909年2月に鋳物技術を活用した水道用鋳鉄管製造をもとに創業して以来、快適で安心して暮らせる社会の実現のため、100年あまりにわたって社会のインフラ整備、ライフラインや産業設備の拡充に取り組んでまいりました。当社グループをお引き立て、ご愛顧いただいておりますステークホルダーの皆様には厚く御礼申し上げます。

さて、昨今の当社を取り巻く事業環境は、ますます混迷を深めております。国際情勢では、米中貿易戦争の長期化、合意を伴わない英国のEU離脱懸念などにより不透明感が増し、日本国内においては、東京オリンピックに向けた準備が本格化する中で、新型コロナウイルスの蔓延により世界

経済活動が停滞する未曾有の事態に陥りました。

このような情勢下ではありましたが、当中期3ヵ年経営計画の2年目となった2019年度連結業績は期初公表値と比較いたしますと売上高、営業利益とも上振れの結果となり、前年度比較としても増収増益となりました。しかしながら、セグメントによっては市場環境や事業構造として非常に厳しい状況が継続しており、依然として予断を許さない状況が続いております。

当中期3ヵ年経営計画では、「変えてはならないもの」すなわち1909年の創業以来、100年以上にわたって我々の先輩諸氏が築き上げてきた、お客様からの「信頼」を絶対に変えないために、「変えなければならないもの」を毅然と変えていこうとしております。

「変えなければならないもの」の一つとして掲げているキーワードが“事業の境界線”です。当社グループは各セグメント、各事業毎に事業領域が分かれておりますが、これまでこの事業領域にある程度安住してしまい、これを変えろという取組を後回しにしてきたのではないかと反省があります。既存の事業領域を堅持することはもちろんですが、ある領域では、これを越えて行くことによって初めて「変えてはならないもの」(=お客様の信頼)をこれからも保持し続けることができると考えております。

この“事業の境界線”を越えていくためには、我々当社グループの従業員一人ひとりが改めて一丸となり、「変わる」、いや「変える」ことを恐れない価値観を共有していかなければならないと考えております。

新型コロナウイルス感染症の拡がりに終息の兆しが見えない中で2020年度はスタートしました。日本が本気でパンデミックと相対峙して闘うといった経験は、初めてではないでしょうか。このウイルスの封じ込めのためには、人・モノの移動を止めるという、景気を悪くするための対策をあえて講じなければならないという苦渋の決断が日本のみならず世界各地でおこなわれています。しかし、当社事業は、社会・経済インフラを支えるものであり、このような景気減退時期であってもステークホルダーの皆様には最適なシステムを提供し続けなければなりません。

クリモトグループにとっても、大変な試練の年になることは間違いありませんが、あらためてクリモトグループ全従業員のベクトルを揃え、この難局を乗り越えていく所存です。

経営理念

私たちは、
全てのステークホルダーの
期待と信頼に応え、
常に最適なシステムを提供し、
『夢ある未来』を創造します。

配当について

なお、当社は、株主の皆様に対する利益還元を最重要政策のひとつと位置付けており、安定的、継続的に配当を実施することを基本方針といたしております。この度、2020年3月期の業績および経営環境等を総合的に判断いたしました結果、2020年3月期の期末配当について1株当たり30円といたします。

当社は2019年2月に、創立110周年を迎えました。長きにわたり、事業活動を継続できたことは、ひとえにステークホルダーの皆様のご指導、ご鞭撻の賜物です。

これからもより一層のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

クリモトグループが策定した中期3カ年経営計画では、経営理念に基づき、現有事業の境界線を越える新たな取組により、事業規模拡大と収益向上の実現を目指します。

中期3カ年経営計画(2018~2020)

前中期3カ年経営計画の反省も踏まえ、社会のトレンドに合致した事業基盤を築くため、この度、経営理念および2018~2020年度を計画年度とする中期3カ年経営計画を策定いたしました。

● 経営理念

この度、クリモトグループの従業員一人ひとりが共有すべき経営理念を新たに制定いたしました。

この理念は、当社が有する普遍的企業理念に基づき、未来に向けて当社グループが目指す方向性を、企業理念・経営理念・社是・企業行動基準を体系化した上で、あらためて定めたものになります。

経営理念

私たちは、
全てのステークホルダーの
期待と信頼に応え、
常に最適なシステムを提供し、
『夢ある未来』を創造します。

「最適なシステム」とは(例)

- | | |
|------------------|---|
| パイプシステム
セグメント | <ul style="list-style-type: none"> 耐震型ダクタイル鉄管、バルブなどの製品を活用した国土強靱化に寄与する管路システムの提案 DB(設計・施工一括発注)方式に対応する、当社が持つ新技術・ノウハウを活かした効果的でお客様にメリットの多い管路更新プランの提案 |
| 機械システム
セグメント | <ul style="list-style-type: none"> お客様のニーズ、要求性能に最適な産業機器の設計、プラントエンジニアリングの提案 お客様における産業機器の稼働を止めない保守、メンテナンス、維持管理の提案 |
| 産業建設資材
セグメント | <ul style="list-style-type: none"> 各種産業分野におけるお客様や社会の要求に応える最適な製品、サービス、ソリューションの提案 |

● 事業の方向性

経営理念に基づき、さまざまな社会の課題、要請に対して、当社技術のイノベーションにより「夢ある未来」の実現に向け、ソリューションを提供してまいります。

その上で、現有事業の事業基盤を確立しつつ、新たな事業規模拡大、収益性向上を目指し、次の100年に向けた持続的成長を達成してまいります。

中期3カ年経営計画メインテーマ

現有事業の境界線を見定め、
ある領域ではそれを堅持し、
ある領域ではそれを越えていく。

● 社会の課題とクリモトグループの新たな取組の関連性

老朽化する社会インフラ	● 上水道施設	← 水道施設の効率的な更新・耐震化を提案
	● 農業用水	← 管路の洗浄や更生による機能回復
	● 道路、鉄道	← 維持管理・補修による延命化
低炭素社会への対応	● 自動車EV化への対応	← 二次電池製造プロセスへの革新的な製造システムの提案
	● 自動車など移動体軽量化への寄与	← CFRP*1など新素材の提案
人口減少による社会構造の変化	● 水需要の減少・水道事業の民営化	← 水道事業運営ビジネスへの参画
	● 建設現場での省人化ニーズ	← プレキャストコンクリート*2製品提供などによる貢献
	● ロボット化社会の進展	← 新たな素材やハプティクス分野*3での貢献

● 業績目標

本計画では、2020年度に売上高1,100億円、営業利益40億円(営業利益率3.6%)、ROE(自己資本当期純利益率)4.0%を達成することを目標として設定しています。



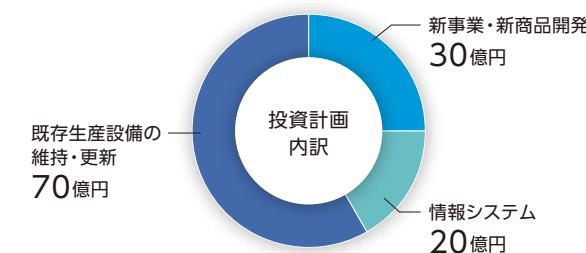
● 投資計画

当中期3カ年経営計画期間の営業キャッシュフローを元に、3年で約120億円規模の投資を計画しております。

特に、新事業、新技術に向けた投資として約30億円、IoT含めたシステム関連投資として20億円等に重点的に投資を行ってまいります。

● 配当

成長投資とのバランスを鑑みつつ、金融市場の期待に応える株主還元を実施するべく、配当性向30%超を目指してまいります。



※記載金額は、2018年度~2020年度の投資累計額

※1 CFRP:炭素繊維強化プラスチック

※2 プレキャストコンクリート:現場で組み立て、設置を行う為に、工場などであらかじめ製造されたコンクリート製品あるいはこれを用いた工法

※3 ハプティクス:触覚を通じて情報を伝達する技術



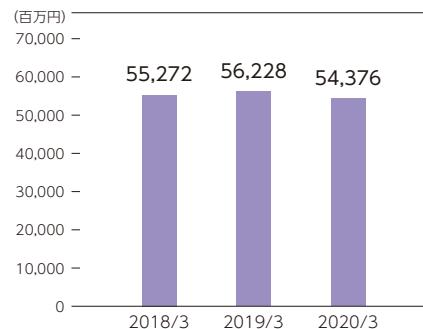
パイプシステム事業

売上高 543億円

「パイプシステム事業」は、売上高につきましては、鉄管部門で出荷が減少したことなどで、前連結会計年度比1,851百万円減収の54,376百万円となりました。

営業利益につきましては、減収であったものの、各種原価改善を実施したこと、原材料価格が想定以下の水準で推移したことに加え、鉄管部門を中心とした価格改定も寄与したことなどにより、前連結会計年度比1,447百万円増益の2,338百万円の利益となりました。

■ 売上高



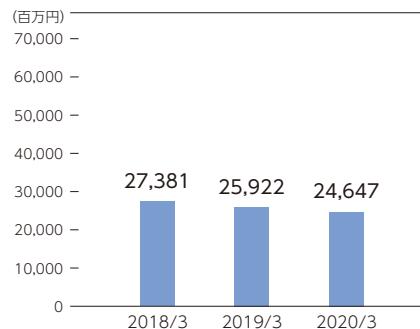
機械システム事業

売上高 246億円

「機械システム事業」は、売上高につきましては、機械部門の鍛圧機、素形材部門において出荷が減少したことなどで、前連結会計年度比1,274百万円減収の24,647百万円となりました。

営業利益につきましては、機械部門、素形材部門における減収の影響などで、前連結会計年度比578百万円減益の1,020百万円の利益となりました。

■ 売上高



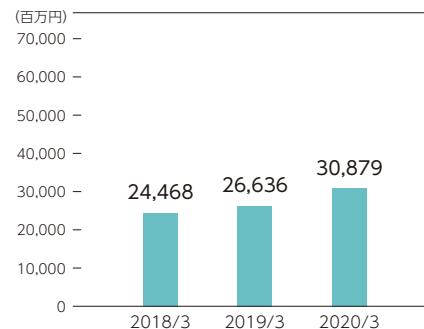
産業建設資材事業

売上高 308億円

「産業建設資材事業」は、売上高につきましては、化成品部門で出荷が堅調であったことに加え、建材部門において空調製品、消音製品を中心に出荷が増加したことなどで、前連結会計年度比4,243百万円増収の30,879百万円となりました。

営業利益につきましては、建材部門、化成品部門における増収に加え、各種原価改善が寄与し、前連結会計年度比533百万円増益の1,272百万円の利益となりました。

■ 売上高



(2020年4月1日現在)

パイプシステム事業

鉄管事業部



人々の暮らしを地下で支える水道管やガス管。身近な暮らしの場面から大きな役割を担うこれらのダクタイル鉄管は、大都市・郊外・農村などあらゆる所で活躍しております。

営業品目 ダクタイル鉄管(直管、異形管、接合部品)、耐摩耗管、管路の設計、施工、施工監理業務および管路調査、点検等の維持管理業務

バルブ事業部



浄水場などの官需分野から、発電所・製鉄所・プラントなどの民需分野、海外向けのバルブを多数取り扱っております。

営業品目 バタフライ弁、ソフトシール仕切弁、スリープ弁、火力・水力発電設備用バルブ、貯水槽用緊急遮断弁、各種調整弁、高炉用弁類、スプリンクラー用予作動式(負圧湿式)流水検知装置

機械システム事業

機械システム事業部



さまざまな産業の生産ラインを支える産業機械設備は各種製品を世に送り出す一翼を担っています。また、単体設備からトータルエンジニアリングまで、幅広く社会に貢献してまいります。

営業品目 微粉砕機、分級機、造粒機、乾燥機、焼成機、混合・混練・分散機、反応機、溶剤回収装置、二次電池材料製造装置、各種産業機械、試験機械、プラントおよびシステム設備、鍛造プレス、バンディングロール、鍛圧機各種周辺装置、プラントエンジニアリング事業/各種プラントの設計、製作、調達、建設、試運転およびメンテナンス

素形材エンジニアリング事業部



破碎技術・材料技術を有する素形材エンジニアリング事業部の商品群は、骨材資源業界、鉄鋼業界、電力業界、セメント業界、鉄道運輸業界を網羅して各種産業分野で活躍しております。

営業品目 破碎機、粉砕機、分級機、搬送機械、耐摩耗鋳物、耐熱鋳物、耐摩耗ポンプ、鉄道用ブレーキディスク、ブレーキライニング、(英) TEREXFINLAY商品

産業建設資材事業

建材事業部



幅広い製品ラインナップと迅速なデリバリーで皆様の期待にお応えしております。

営業品目 スパイラルダクト、各種フレキシブルダクト、サイレントフレックス、各種消音製品、ステンレスダクト、スーパースパイラル、プレミアムスパイラルダクト、コルエアダクト(段ボール製ダクト)、ワインディングシース、ポリエチレンシース、ワインディングパイプ、梁貫通孔補強筋(スーパーハリー Z)、中空スラブ、各種耐震製品、ハーフプレキャスト製品(カイザーズラップ・カイザーバルコニー)、PCaシステム階段、消音・騒音対策事業(測定・設計・製作・施工・確認)、透光型吸音パネル(ビューゾーン)

化成品事業部



FRPが持つ多機能で自由度の高い特性を活かし、真に信頼される製品づくりを目指して、広く社会基盤の整備に貢献してまいります。

営業品目 強化プラスチック複合管(FRP管)、強化プラスチック管(FRP管)、強化プラスチック複合板(FRP板)、FRPコア、FRP引抜成形品、各種合成樹脂成形品

「クリモト健康経営方針」を制定

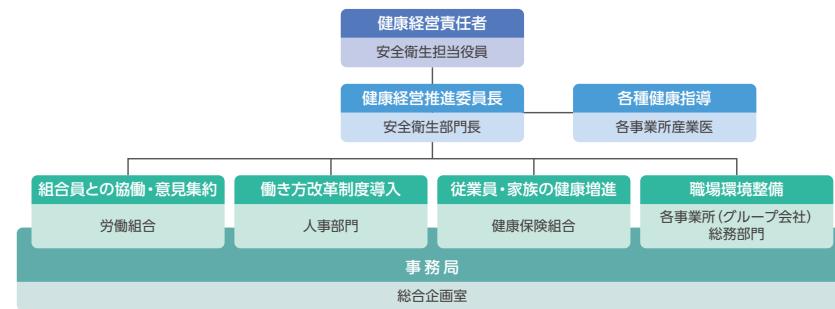
2020年4月、当社は健康経営を推進するため、「クリモト健康経営方針」を制定しました。当社は、創業以来110年余の歴史の中で従前から従業員の健康増進に向け、様々な施策に取り組んでまいりました。これらをより一層具体化し、従業員にとって安全かつ快適に働くことのできる職場環境を整備することを目指し、新たに健康経営方針及びその推進体制を定めました。

クリモト健康経営方針

1. 当社グループの持続的成長に向け、従業員一人ひとりの健康維持と快適な職場環境の整備は当社の最優先課題の一つである。
2. 当社と労働組合、健康保険組合は一体となり、社員とその家族を含めたステークホルダーがともに健康で充実した生活を送れるよう、諸々の取組みを推進する。
3. 安全と健康を最優先する意識の醸成を図り、社員一人ひとりが自立的に活動を実践する企業文化を醸成する。

推進体制

以下の通り「クリモト健康経営推進委員会」を定め、その諸施策策定、効果検証を実施いたします。



ロードマップ

■ 2019-2022年 健康経営推進委員会ロードマップ (概要)

クリモト健康経営推進委員会

目標	重点課題	具体的施策	2020年		2021年		2022年		定量目標値
			上期	下期	上期	下期	上期	下期	
① 従業員の健康増進	従業員への働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> 特定保健指導の積極的実施 有所見者の医療機関受診勧奨 生活習慣改善に向けた施策等 	<ul style="list-style-type: none"> 特定保健指導推進 定期健診、主婦健診受診勧奨 従業員および被扶養者に対する健診補助事業実施 						特定保健指導実施率55%以上
	環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防に向けた備品整備 改正健康増進法への対応 健康増進施設の利用斡旋 	<ul style="list-style-type: none"> 屋内禁煙実施 感染症予防、拡散防止対策 		<ul style="list-style-type: none"> 禁煙指導、支援の実施 運動機会増進施策の実施・検証 				喫煙率25%未満
② メンタルヘルス対策	予防対策	<ul style="list-style-type: none"> 高ストレス職場の環境改善 メンタルヘルス教育の立案、実施 	<ul style="list-style-type: none"> 従業員ストレスチェック実施 高ストレス職場の抽出、改善施策検討、実施 メンタルヘルス教育実施 						メンタルヘルス休職者ゼロ
	メンタルヘルス不調者への対応	<ul style="list-style-type: none"> 高ストレス者の環境改善 休職者の復帰支援 	<ul style="list-style-type: none"> 高ストレス者への産業医面談勧奨 就業規則、規定の見直し 		<ul style="list-style-type: none"> 職場復帰制度内容の効果検証、見直し 				
③ ワークライフバランス推進	働き方改革施策導入	<ul style="list-style-type: none"> テレワーク(在宅勤務)制度導入 従業員意識調査実施 	<ul style="list-style-type: none"> テレワーク(在宅勤務)制度試験導入 従業員意識調査実施、施策検討 		<ul style="list-style-type: none"> テレワーク制度水平展開 働き方改革施策実行 				80時間超残業者ゼロ
	働きやすい職場環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション推進施策実施 ハラスメント防止教育実施 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所毎コミュニケーションイベント実施 経営層、基幹職へのハラスメント防止研修&フォロー 						ハラスメント案件ゼロ
④ 制度、教育の整備	就業規則等の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 退職者の職場復帰制度 子育て両立支援等 	<ul style="list-style-type: none"> 就業規則、規定の見直し 退職者の職場復帰制度制定 		<ul style="list-style-type: none"> 効果検証 実効性のある諸施策検討 				
	教育機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> 健康に関する管理者教育等 	<ul style="list-style-type: none"> 基幹職への健康教育実施 女性対象の新規健康教育実施 		<ul style="list-style-type: none"> 効果検証 実効性のある諸施策検討 				
⑤ 健康経営	健康経営優良法人認定取得	<ul style="list-style-type: none"> 認定基準の適合調査 健康経営普及への貢献 	<ul style="list-style-type: none"> 健康優良法人認定取得 		<ul style="list-style-type: none"> 健康優良法人ホワイト500認定取得、維持 				

クリモトブランド展開

2019年は創立110周年をきっかけとした「クリモトブランド」構築元年として、「変わる」クリモトを発信するために様々なプロモーションを実施しました。

クリモトイメージソング制作

社員のみならず、すべてのステークホルダーをエンカレッジ(勇気づけ)したいとの想いをこめたイメージソング「Challenge tochange」を制作。プロモーションムービーのBGM、カラオケ登録など、クリモトの新たなイメージを伝えるために幅広く展開しています。



クリモトプロモーションムービー「くりもとさん」制作

ヒロインの頑張る姿を当社のチャレンジする姿勢と重ねつつ、クリモトの新たなチャレンジを発信するプロモーションムービー「くりもとさん」。第1話、第2話を制作し、屋外ビジョンやYouTubeなど各種メディアにて展開しています。



映画「前田建設ファンタジー営業部」への出演

映画の元となった実話に、当社社員が実際に協力していたことから、「栗本鐵工所」の実名で登場。モノづくりへの熱い想いと遊び心をもった会社として紹介されました。



プロモーションムービー「くりもとさん」とイメージソング「Challenge to change」は、110周年特設サイトにて公開中です。

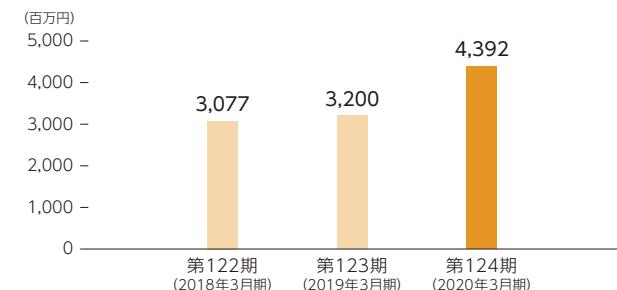


<https://www.kurimoto.co.jp/110th/movie/>

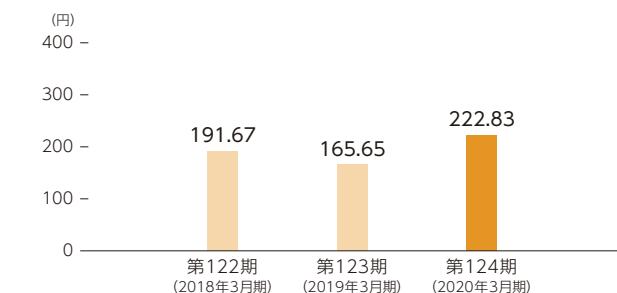
■ 売上高



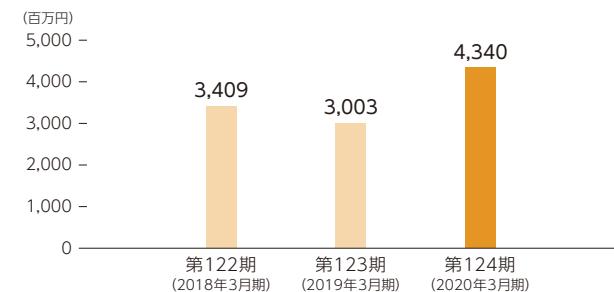
■ 経常利益



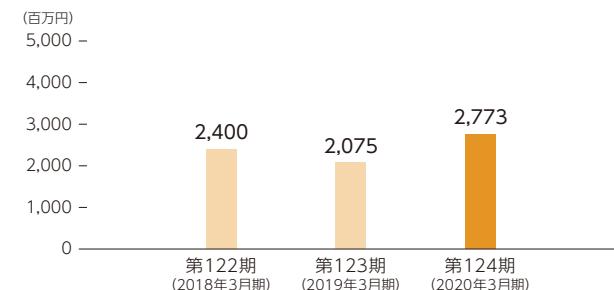
■ 1株当たり当期純利益



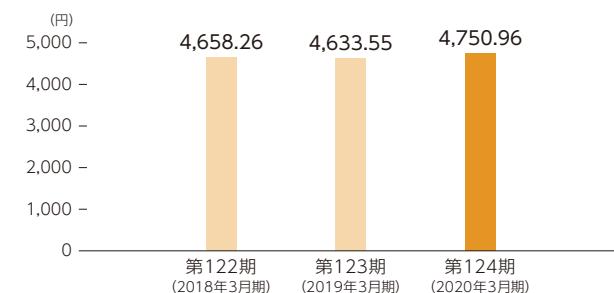
■ 営業利益



■ 親会社株主に帰属する当期純利益



■ 1株当たり純資産額



■ 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
	2020年3月31日現在	2019年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	84,669	87,774
固定資産	49,546	48,695
有形固定資産	32,867	31,121
無形固定資産	1,400	745
投資その他の資産	15,279	16,828
資産合計	134,216	136,469
(負債の部)		
流動負債	63,325	64,328
固定負債	12,013	13,274
負債合計	75,339	77,602
(純資産の部)		
株主資本	58,816	57,493
資本金	31,186	31,186
資本剰余金	6,873	6,880
利益剰余金	22,587	21,178
自己株式	△ 1,831	△ 1,750
その他の包括利益累計額	△ 923	576
その他有価証券評価差額金	771	2,013
為替換算調整勘定	△ 4	5
退職給付に係る調整累計額	△ 1,690	△ 1,442
非支配株主持分	984	797
純資産合計	58,876	58,867
負債・純資産合計	134,216	136,469

■ 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
	2019年4月1日から2020年3月31日まで	2018年4月1日から2019年3月31日まで
売上高	109,904	108,786
売上原価	83,786	84,147
売上総利益	26,117	24,639
販売費及び一般管理費	21,777	21,636
営業利益	4,340	3,003
営業外収益	576	662
営業外費用	524	465
経常利益	4,392	3,200
特別利益	531	588
特別損失	908	1,201
税金等調整前当期純利益	4,014	2,587
法人税、住民税及び事業税	1,389	610
法人税等調整額	△ 113	△ 155
法人税等合計	1,275	454
当期純利益	2,739	2,133
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△ 34	58
親会社株主に帰属する当期純利益	2,773	2,075

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
	2019年4月1日から2020年3月31日まで	2018年4月1日から2019年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,552	4,141
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,951	△ 1,918
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,769	△ 4,211
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 8	11
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 1,177	△ 1,976
現金及び現金同等物の期首残高	21,507	23,134
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	350
現金及び現金同等物の期末残高	20,330	21,507

■ 株式の状況

(2020年3月31日現在)

発行可能株式総数	39,376,600株
発行済株式の総数	13,098,490株
単元株式数	100株
株主数	6,831名

■ 大株主(上位10名)

(2020年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
太陽生命保険株式会社	1,209	9.8
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,201	9.8
日本生命保険相互会社	678	5.5
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	522	4.2
株式会社りそな銀行	444	3.6
株式会社みずほ銀行	362	2.9
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	320	2.6
岩谷産業株式会社	289	2.3
株式会社三井住友銀行	272	2.2
ガバメント オブ ノルウェー	269	2.2

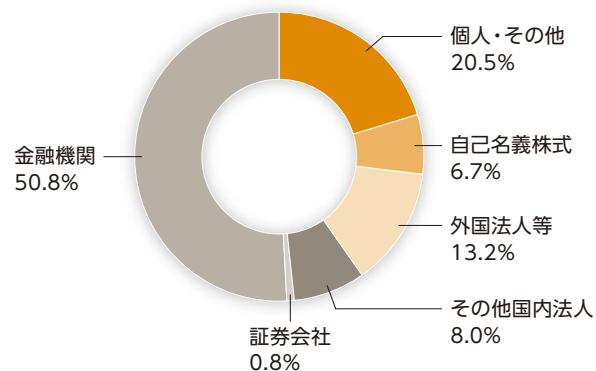
※1 当社は自己株式(879,913株)を保有しておりますが、上記の表には記載しておりません。

※2 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

※3 自己株式には、株式給付信託(BBT)の信託財産として資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式33,189株は含んでおりません。

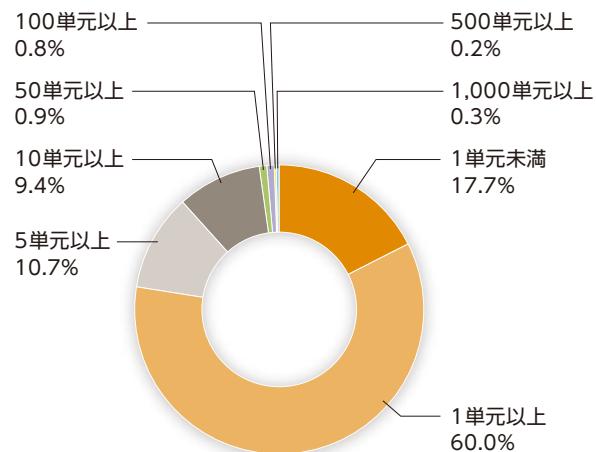
■ 所有者別株式分布状況

(2020年3月31日現在)



■ 所有株式数別株主分布状況

(2020年3月31日現在)



■ 会社の概要

(2020年3月31日現在)

社名	株式会社 栗本鐵工所
英文社名	Kurimoto, Ltd.
創立	1909年2月2日
設立	1934年5月10日
資本金	31,186,098,159円
従業員数	1,341名(単体) 2,116名(連結)

■ 役員

(2020年6月25日現在)

代表取締役社長	串田 守可
取締役専務執行役員	岡田 博文
取締役常務執行役員	屋地 幹生
取締役上席執行役員	新宮 良明
取締役上席執行役員	菊本 一高
取締役上席執行役員	織田 晃敏
社外取締役	大槻 延廣
社外取締役	近藤 慶子
常勤監査役	村田 実
社外監査役	箱崎 一彦
社外監査役	有田 真紀
上席執行役員	近藤 一晴
上席執行役員	小島 眞也
上席執行役員	佐藤 尚人
執行役員	斎藤 直史
執行役員	福井 武久
執行役員	宮崎 隆行
執行役員	吉永 泰治
執行役員	上田 高生
執行役員	野口 安次
執行役員	浦地 好博
執行役員	丸谷 等
執行役員	廖 金孫

■ クリモグループ

国内関係会社

- 栗本商事株式会社
- ヤマトガワ株式会社
- 北海道管材株式会社
- クリモロジスティクス株式会社
- クリモパイプエンジニアリング株式会社
- 株式会社本山製作所
- 株式会社ケイエステック
- 八洲化工機株式会社
- ジャパンキャストリング株式会社
- 日本カイザー株式会社
- 株式会社ゼンテック
- クリモポリマー株式会社
- 株式会社クリモビジネスアソシエイツ

海外関係会社

- 栗光股份有限公司
- 栗鉄(上海)貿易有限公司
- Readco Kurimoto, LLC
- Kurimoto USA, Inc.